



ウクライナからの避難者はいま —伴走支援から見えてきたこと—

YMCAの世界各地での避難者支援をとおして



講 師 横山 由利亞氏

(日本YMCA同盟

ウクライナ避難者支援プロジェクト責任者・執行理事



日時 8月15日(金)

13時30分～15時30分

会場 日本基督教団 大宮教会

(駐車場が少ないため 公共交通機関をご利用ください)

会場 TEL 048-641-6148



(講演者プロフィール) 日本基督教団 三鷹教会員。30年にわたり国内外の人道支援に従事

2019年から社会協働プロジェクトの責任者。これまで約1700名の避難者を支援。

ロシアのウクライナ侵攻から3年半が過ぎようとしています。日本には最大2,700名、現在は約1,900名が避難者として全国各地で生活しています。止む無く帰国される方もいますが、いまから避難を希望する方も後を絶ちません。YMCAは世界各地で避難者支援を行い、日本では東京を中心にこれまで全国1700名の支援を、来日から生活・自立支援まで行ってきました。2025年、ウクライナ避難民の生活を支える経済的支援が順次終了して行きます。日本政府により、紛争避難民など難民条約上の難民ではないものの保護を必要とする外国人を対象とした「補完的保護制度」がスタートし、自立に向けた支援策なども開始されていますが、まだまだ課題が山積しています。「いま、日本で暮らすウクライナ避難民は、何を最も不安に感じているのか。」「日本での定着か、本国への帰国か。」戦争の状況は、アメリカを始めとする世界の情勢によっても変化が予想されますが、残念ながら混迷していると言わざるを得ません。3年半にわたって、ウクライナ避難民のあらゆる生活のお困りごとから、将来に関わる生活設計まで多く伴走支援をしてきた立場だからこそ知るウクライナ避難民の本当の声、苦悩をお話し、「戦争とは何か」「平和のために私たちにできること」をご一緒に考える機会にしたいと存じます。(横山氏より)

主催 埼玉地区 問い合わせ先 町田さとみ (埼玉地区書記)

TEL 049-224-7594 アドレス joyful1932@nifty.com